

# 学都屋台食談

第5回 金城大学 学長 前島伸一郎氏

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月15日から11月25日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で14年目を迎えた食談で、講師の方々が語ったメッセージを紹介します。



## 金城大学

### 合格点を超えた 学びが不可欠

皆さんの中には、医師や看護師を目指している学生もいます。国家試験に向けて頑張っているところだと思いますが、もしかしたら、合格さえすれば良いと思っているのではないのでしょうか。仮に試験の合格点が60点だとします。資格を取るにはこのラインを超えれば良いわけですが、私の思いとしては明らかに不十分であり、もともと意識を上に向けてほしい。

それは、皆さんやご家族が病気や怪我<sup>けが</sup>で入院したことをイメージすれば分かりやすいでしょう。その際、60点の手術やケアで納得できますか。注射1本打たれるにしても、100点満点、むしろそれ以上の効果を求めるのが心情です。その期待に応えるためには、合格点に満足しない向学心を持つてください。

もちろん、この話は医療業界だけに限った話ではありません。皆さんはこれから、機械や環境など、大学での学びを生かし、それぞれの専門職へと進んでいきます。その過程で、「目指す会社に就職できた」「国家試験に合格できた」と、スタートラインに立てたことに、いつまでも満足してはいけません。専門職として、絶えず上を目指して努力を続けていくことを心がけてください。

### 積極的に自ら手を挙げ 仕事と向き合ってほしい

特に、若い時には、「やります」と自ら手を挙げるくらい積極的に仕事に向き合ってほしいと思います。受け身で待っているだけでは、成長につながる仕事はなかなか任せられません。

自分自身を振り返ってみても、医師免許を取りたての研修医時代は、どんな小さな仕事も買って出るようにしました。それは、自分の力不足を実感していたからです。「三流ならば、人の3倍働かしかな」と考えていました。当時の給料を時給に換算すると、目を覆いたくなってしまうのですが、がむしゃらに仕事に取り組んだこの時の経験

## 目標はより高く、常に成長を

が、私を育ててくれたのも間違いありません。

懸命に過ごす日々の中では、うまくいかずに失敗することもあるでしょう。それも一つの経験です。うれしいことも、苦しいことも、たくさん経験を重ねることが、人間的な成長につながります。

### 学都での学生時代に ぜひ幅広い交流を

私は昨年4月に金城大学に赴任し、今年で2年目となります。和歌山や埼玉など、いろいろな地域で働いてきましたが、金沢の学生の多さには驚いています。数えてみると、金沢市を中心に県内には21もの高等教育機関（大学や短期大学、高等専門学校）があります。しかも、医療やリハビリ、工学、国際など、多種多様な専門分野があり、全国をリードするような学生プロジェクトも少なくありません。

まさに金沢は学都であり、この地で学生時代を過ごす意義はとても大きいと言えるでしょう。皆さんにはぜひ、今日の屋台食談のように、いろいろな大学の学生と交流を深めてほしいと思います。私も大学にかかわる一人として、他大学の先生と協力しながら、連携した取り組みができないか探っているところです。学生時代はとも学びの多い期間です。幅広い仲間と触れ合い、視野を広げていくってください。



参加生

前列左から須永珠緒さん(金沢大学4年)、松下未来さん(金城大学4年)、後列左から三浦菜那さん(石川県立大学2年)、杉原将喜さん(金沢工業大学3年)、長江源さん(金沢医科大学4年)

企画/榎アドマック 編集/榎都市環境マネジメント研究所



講師  
金城大学  
学長

## 前島 伸一郎氏

まえしま・しんいちろう

和歌山県和歌山市出身。藤田保健衛生大学医学部卒業。医学博士。川崎医療福祉大学や埼玉医科大学、藤田保健衛生大学(現・藤田医科大学)で教授を務め、2018年4月から現職。日本スポーツ協会公認スポーツドクター、日本リハビリテーション医学会専門医・指導責任者。日本リハビリテーション医学会代議員や日本高次脳機能障害学会理事なども務める。